

大山学園都市建設に係る埋蔵文化財試掘調査報告

東黒牧上野遺跡
東福沢遺跡



1989年3月
大山町教育委員会

表紙写真は東黒牧上野遺跡出土の縄文土器

はじめに

大山町では、町勢の振興をはかるため、平野部と山岳地帯の間にある里山の開発を、長年の課題としておりましたが、ようやく、昭和60年に学園都市特別委員会を設置し、文珠寺、東黒牧上野の台地に大学を中心とする大山学園都市を建設することになりました。

一方、この台地には、東黒牧上野遺跡、東福沢遺跡、文珠寺稗田遺跡などの埋蔵文化財包蔵地があります。埋蔵文化財は、故郷に生きた原始・古代の人々の生活や文化を今に伝える貴重な歴史遺産であり、これを保存し後世に伝えていくことも、今に生きる我々の使命あります。

そのようなことで、学園都市の建設に先立ち、埋蔵文化財の保護措置を講ずるため、遺跡の遺存状況や範囲、性格などを明らかにすることを目的として、昭和62年と63年の2か年にわたり、東黒牧上野遺跡と東福沢遺跡の発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、東黒牧上野遺跡は、旧石器時代、縄文時代、平安時代の複合遺跡で、およそ2万年前から1000年前までの人々の生活の跡が残されていること、東福沢遺跡は遺存状況の良好な縄文時代中期の集落跡であることなどが明らかになりました。

調査の成果に基づき、遺跡の保護措置を検討し、幹線道路にかかる東福沢遺跡はルートを変更し現状のまま保存し、東黒牧上野遺跡は、大学建物の配置を変更することで、良好な包蔵地の現状保存をはかることができました。

今回の調査にあたり、富山県埋蔵文化センターのご指導をいただきました。また東黒牧上野地区のご協力を得ました。最後になりましたが、関係者の皆様に心から感謝の意を表します。

平成元年3月

大山町教育委員会

教育長 土肥 菊壽

目 次

I. 遺跡の位置.....	1
第1図 遺跡の位置.....	1
II. 調査の概要.....	2
(1) 調査に至るまで.....	2
表1 東黒牧上野遺跡周辺の遺跡.....	2
第2図 試掘調査対象区と周辺の遺跡.....	3
(2) 昭和62年度の調査.....	5
表2 東黒牧上野遺跡試掘調査結果.....	5
第3図 昭和63年度第2期調査.....	6
第4図 東福沢遺跡試掘調査発掘区.....	7
(3) 昭和63年度の調査.....	8
第5図 昭和63年度第1期調査(1).....	9
第6図 昭和63年度第1期調査(2).....	10
第7図 東黒牧上野遺跡試掘調査発掘区.....	11
III. ま と め.....	13

写真図版

例 言

- 本書は、大山学園都市建設に先立ち実施した、東黒牧上野遺跡と東福沢遺跡の試掘調査の概要報告である。
- 調査期間、発掘面積は以下のとおりである。

昭和62年度 第1期調査	5月6日から6月15日	発掘面積 6,976m ²	東黒牧上野遺跡A・B・C・D・F・G地区
第2期調査	11月24日・25日	〃	265m ² 東黒牧上野遺跡D地区
第3期調査	11月24日から11月30日	〃	2,200m ² 東福沢遺跡
昭和63年度 第1期調査	5月30日・31日	〃	365m ² 東黒牧上野遺跡A地区
第2期調査	7月4日から7月18日	〃	1,835m ² 東黒牧上野遺跡A・B・C・G地区
第3期調査	11月1日から11月18日	〃	1,520m ² 東黒牧上野遺跡A地区、H地区
- 調査は大山町教育委員会が行い、調査にあたっては、富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣をうけた。
- 調査事務局は、大山町教育委員会に置き、社会教育主事高井誠が調査事務を担当し、課長並岡敏雄が統括した。
- 調査は、富山県埋蔵文化財センター文化財保護主事狩野聰、池野正男、斎藤隆、久々忠義、安念幹鈴、島田修一が担当した。
- 発掘区の測量にあたっては、町振興課森井正秀、浅野貴和の協力を得た。
- 貴物の整理・本書の作成は、富山県埋蔵文化財センターで行い、出土遺物、図面・写真は当センターで保管している。
- 本書の作成は、埋文センター所員の協力を得て、久々が行なった。

I. 遺跡の位置と地形

東黒牧上野遺跡と東福沢遺跡は、いずれも大山町東黒牧上野に所在する。(第1図)

東黒牧上野は、東西約2km、南北200m~600mの東西に細長い台地で、標高は140m~200mである。周囲は比高差40m~80mの崖となっている。(写真1・2・3)

台地は、常願寺川の旧扇状地が隆起したもので、北側は新扇状地が開け、東西は熊野川とその支流によって開析され、南側は標高3,000m級の山岳地帯へと連なる。

常願寺川が平野部へ流れ出す所の左岸には、上野、文珠寺、東黒牧上野の大きく三つの台地がある。里山と呼ばれるこれら台地は、上野地区が水田、文珠寺地区は牧草地と畑、東黒牧上野地区は畑地と雑木林となっている。

大山学園都市は、文珠寺と東黒牧上野の開発をめざすものである。



第1図 遺跡の位置(5万分の1) 1 東黒牧上野遺跡 2 東福沢遺跡

II. 調査の概要

(1) 調査に至るまで

大山町では、昭和55年の町総合計画の策定以来、平野部と山岳地帯の間に位置する台地の利用を検討していたが、昭和60年に学園都市特別委員会を設置し、文珠寺、東黒牧上野の台地上に大学を中心とする大山学園都市の建設を計画した。

その第1期として、昭和63年度から東黒牧上野台地に富山国際大学、インテック研究所、幹線道路の建設に着手し、大学の平成2年度の開学をめざして建設工事が始まった。

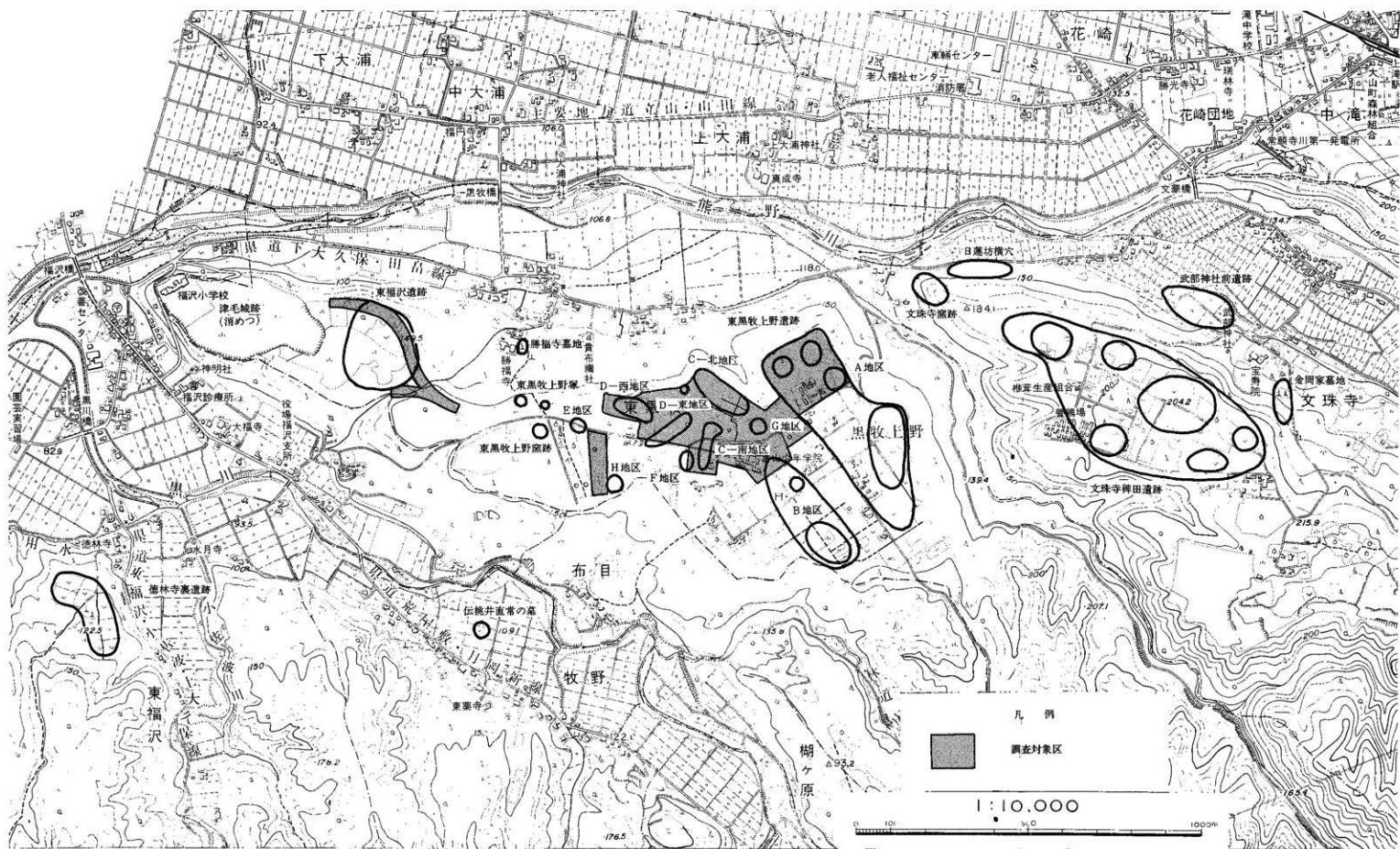
東黒牧上野丘陵には、東黒牧上野遺跡、東福沢遺跡、津毛城などの埋蔵文化財が知られていたが、津毛城は土砂採取によって破壊された。一方、大山町教育委員会では、町史編さん事業の一環として昭和60年に同丘陵での遺跡分布調査を実施したが、從来は狭い範囲でしか確認されていなかった遺跡の広がりが、丘陵全体に及ぶこと、縄文時代だけでなく、旧石器時代、奈良～平安時代の遺物も散布することが明らかになった。また、東黒牧上野塚（一字一石経塚か）や東黒牧上野窯跡も発見された。（第2図）

そのため、建設工事が始まる前に、このような遺跡の保護措置を講ずるため、昭和62年度と昭和63年度に、遺跡の範囲と遺存状況を確認するための試掘調査を実施することとなった。調査は大山町教育委員会が主体となり、県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を得て行った。

表1. 東黒牧上野遺跡周辺の遺跡

番号	遺跡	時代・遺物	遺跡の種類	備考※
1	東黒牧上野遺跡	旧石器、縄文（早期・中期・後期・晚期）、古墳、平安	集落跡、散布地	879
2	東福沢遺跡	縄文（中期）	散布地	877
3	文珠寺碑田遺跡	縄文（草創期・前期・中期・後期）、平安	散布地	
4	徳林寺裏遺跡	旧石器、縄文（中期）、平安	散布地	
5	東黒牧上野塚	中世～近世	塚	
6	文珠寺碑田窯跡	近世	越中瀬戸焼窯跡	881
7	日蓮坊横穴	中世～近世、須恵器（珠洲焼か）	炭焼窯跡	
8	勝福寺墓地	中世、近世、五輪塔、板碑	墓地	
9	金岡家墓地	中世、五輪塔、宝きよ印塔、板碑、珠洲焼、白磁	墓地	
10	伝桃井直常の墓	中世、五輪塔、珠洲焼	墓地	876
11	津毛城跡	中世	城跡	878
12	武部神社前遺跡	中世、珠洲焼、越前焼、土師質小皿、五輪塔、板碑	散布地、墓地	
13	東黒牧上野窯跡	近代～現代、陶器、瓦	窯跡	

※ 富山県遺跡地図番号



第2図 試掘調査対象区と周辺の遺跡

(2) 昭和62年度の調査

第1期調査

昭和62年5月6日～6月15日の間、富山国際大学建設予定地及びインティック研修所予定地約132,000m²を対象とし、東黒牧上野遺跡の試掘調査を実施した。(第7図)

調査地は、畑地、雜木林、少年学園跡地であり、雜木林は発掘作業員の人力により、その他はバックホウの機械力を用いて発掘した。(写真3～5)

発掘方法は、幅1mのトレンチ(試掘溝)を、調査地の状況に応じて、5～10m間隔に長さ5～70mのものを、表土から深さ約10～100cmにある黄灰色粘土層上面までを掘削し、遺物の発掘と遺構の検出をめざした。発掘面積はあわせて6,976m²である。

その結果、調査地から縄文時代早期、中期、晚期の土器、石器と穴(竪穴住居跡か)、古墳時代初期の土師器と竪穴住居跡、平安時代の須恵器が発見された。縄文時代早期の押型文土器と古墳時代初期の土師器と竪穴住居跡は、これまで大山町では発見されていないものである。(写真6～17)

最も出土の多いのは、縄文時代中期の遺物で、A地区と呼ぶ從来から遺跡として知られていた所である。他の地区は遺物が散布するが、遺構は小さな穴が所々に残されている程度である。

調査の結果に基づき、遺跡の保護措置を検討した結果、大学建物の配置やグランドの位置を当初計画を変更し、A地区の遺物量の多い所と晚期の穴、C地区の穴、F地区、G地区の竪穴住居跡については、現状のまま保存することとなった。その他については、遺物出土地点を中心に発掘し、遺構の有無を確認する調査を行うこととした。

表2. 東黒牧上野遺跡試掘調査結果

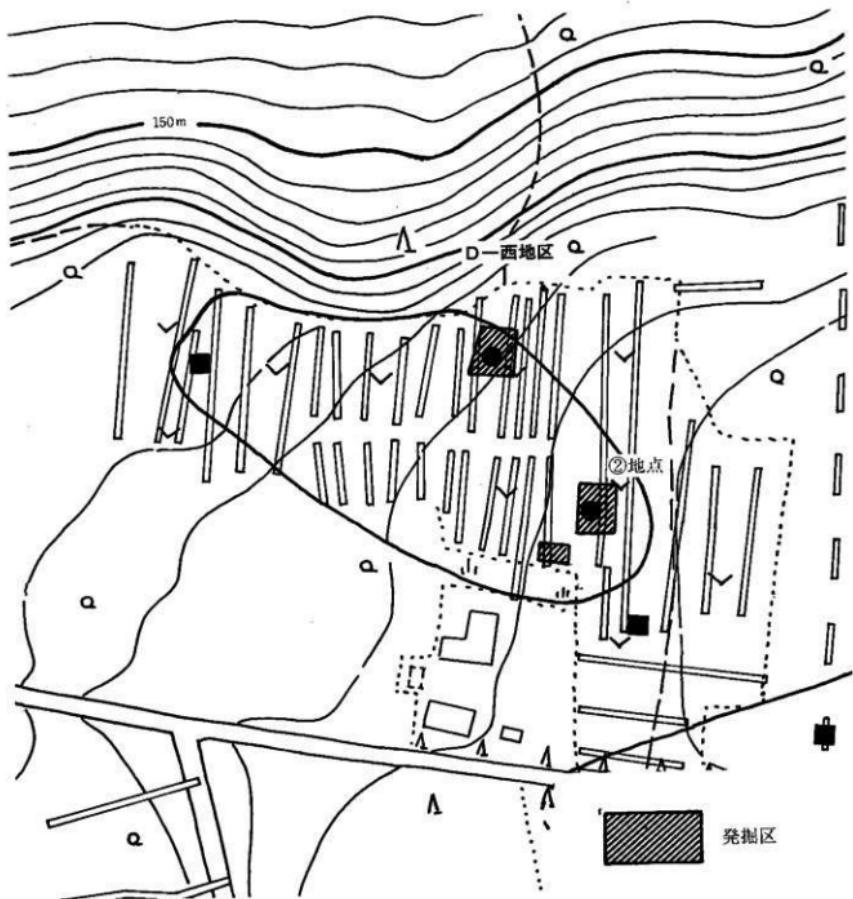
地区名	対象面積	発掘面積	時 代	出 土 遺 物	遺 構
A地区	24,000m ²	1,246m ²	縄文時代 (中期、晚期) 平安時代	縄文土器中期(古府式、串田新式) 晚期(下野式) 磨製石斧、打製石斧、凹石、すり石、石皿、たたき石、砥石、石斧 未成品、土製円板 須恵器	晩期の穴 (竪穴住居跡)
B地区	20,000m ²	1,822m ²	縄文時代	縄文土器、たたき石	
C地区	24,000m ²	1,396m ²	縄文時代 (早期、中期か)	縄文土器早期(押型文土器) 打製石斧	穴
D地区	45,000m ²	1,704m ²	縄文時代	縄文土器 磨製石斧、打製石斧、石錐、石皿	
F地区	5,000m ²	300m ²	平安時代	須恵器(环、かめ、壺)	穴、炭焼窯
G地区	14,000m ²	508m ²	古墳時代	土師器(かめ、蓋)	竪穴住居跡

第2期調査

昭和62年11月24日・25日、インティック研修所予定地の東黒牧上野遺跡D地区約4,800m²を対象とし、建物建設部分について、遺構の有無を確認するための発掘調査を実施した。(第6図)

調査地は畠地であり、発掘作業は第1期調査の結果に基づき、遺物が出土した3地点をバックホウの機械力で表土を排土し、人力で遺構の検出を行った。発掘面積はあわせて約265m²である。

試掘調査では、縄文土器、磨製石斧、打製石斧、石錐、石皿が発見されているが、今回の調査では、縄文時代の遺物、遺構は発見されなかった。②地点で、焼土、炭化物を含む穴が4か所、含まない穴1か所がみつかったが、時期は不明である。前者は炭焼窯であろう。(写真19の下)



第3図 昭和63年度第2期調査

第3期調査

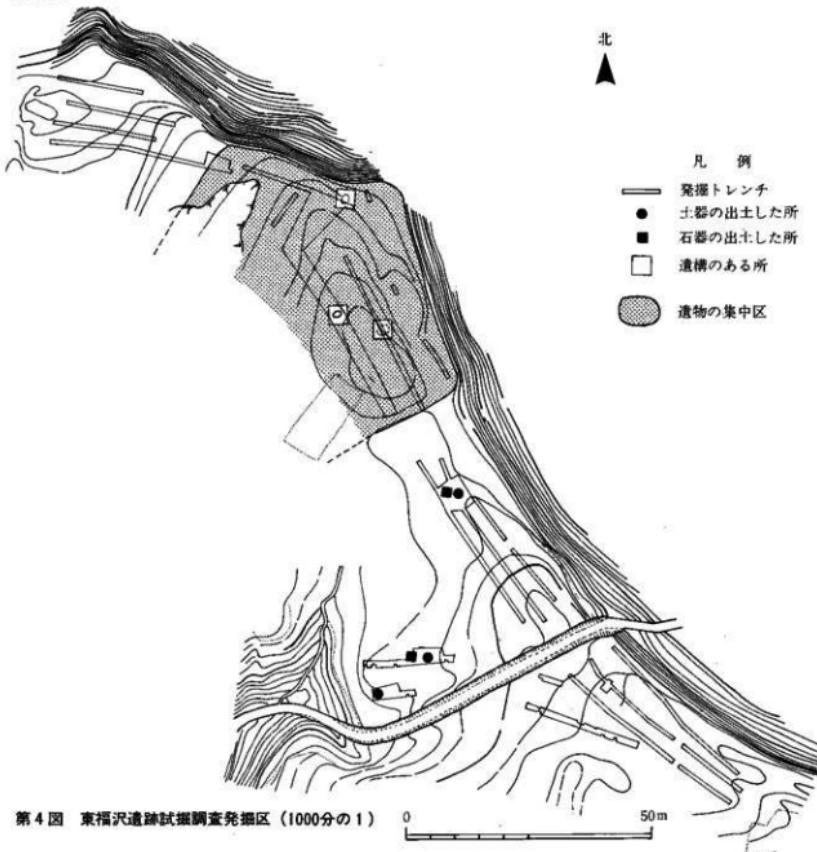
昭和62年11月24日～30日の間、幹線道路予定地約22,000m²を対象とし、東福沢遺跡の範囲と遺存状況を確認するための試掘調査を実施した。(第4図、写真20)

調査地は、竹林と雑木林であり、樹木の伐採後バックホウの機械力を用いて発掘した。

発掘方法は、幅1.5mのトレンチ(試掘溝)を、調査地の状況に応じて、4～10m間隔に長さ4～80mのものを10か所で発掘した。深さは表土から約15～80cmにある褐色粘土層上面までで、遺物の発見と遺構の検出をめざした。発掘面積はあわせて約2,200m²である。(写真21の上)

その結果、8トレンチ28地点で縄文時代中期前葉(新崎式)の縄文土器、石鎌、石匙、すり石、磨製石斧、石皿を発見し、3か所で竪穴住居跡が検出された。遺物量が多く、竪穴住居跡も確認され、遺跡の遺存状況の良好な縄文時代集落跡である。(写真21の下、写真22)

調査結果に基づき、遺跡の保護措置を検討した結果、幹線ルートを当初計画を変更し、遺跡は現状のまま保存することとなった。



第4図 東福沢遺跡試掘調査発掘区 (1000分の1)

(3) 昭和63年度の調査

第1期調査

昭和63年5月30日・31日、幹線道路のルート変更に伴い、新ルート予定地約1,500m²を対象とし、東福沢遺跡の範囲と遺存状況を確認するための試掘調査を実施した。

調査地は、雜木林であり、樹木の伐採後、バックホウの機械力により、幅2~4mのトレンチを調査地の状況に応じて、6~10m間隔に長さ11~46mのものを4か所で発掘した。深さは表土から約30~60cmにある黄褐色粘質土上面までである。発掘面積は約365m²である。

調査の結果、繩文土器、すり石が各1点出土した。しかし、遺構は検出されなかった。

昭和62年度調査の東福沢遺跡中心部からおよそ200m離れた所であるが、散発的ながら遺物の出土が認められる。

第2期調査

昭和63年7月4日から18日の間、富山国際大学建設地の東黒牧上野遺跡A地区、B地区、C地区、G地区の建物建設部分について、遺構の有無を確認するための発掘調査を実施した。(第5図・6図、写真17の下~19の上)

調査地は畑地の荒地であり、発掘作業は昭和63年度第1期調査に基づき、遺物が出土した地点をバックホウの機械力で耕土し、人力で遺構の検出を行った。発掘面積は、A地区260m²、B地区390m²、C北地区800m²、C南地区285m²、G地区100m²、あわせて1,835m²である。

調査の結果、C一北地区で縄文時代晚期の穴が検出され、A地区で繩文土器、C一北地区で繩文土器(晚期)、土師器、C南地区で繩文土器が数点発見された。

第3期調査

昭和63年11月1日から18日の間、富山国際大学のグランドの位置の変更に伴い、新グランド予定地の米調査区約14,800m²を対象とし、東黒牧上野遺跡A地区の範囲と遺存状況を確認するための試掘調査と、駐車場予定地約15,400m²を対象とし、東黒牧上野遺跡H地区の範囲と遺存状況を確認するための試掘調査を実施した。(第7図、写真23の上)

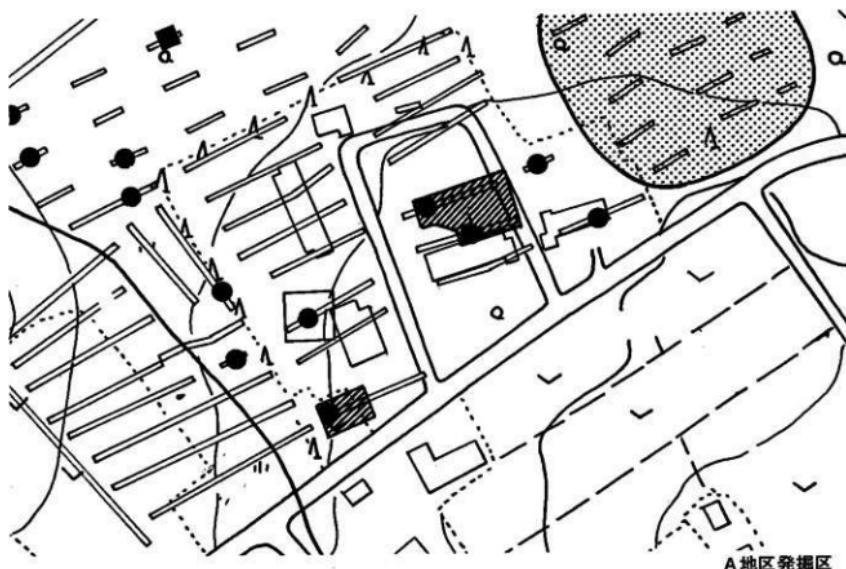
A地区的調査地は雜木林であり、樹木の伐採後、バックホウの機械力により、幅1.2~1.4mのトレンチを、15~20m間隔に長さ6~76mのものを10か所で発掘した。また、補足的に人力により1m×1mの試掘穴を12か所で発掘した。発掘面積は約582m²である。深さは約30~70cmにある黄褐色粘質土上面までである。

調査の結果、縄文時代中期後葉(串田新式)と後期後葉(本江式)の繩文土器、磨製石斧、すり石、石皿、凹石が発見された。後期後葉の遺物は、これまで大山町では発見されていない。中期と後期の出土地点は立地を異にしており、それぞれ径約50mの遺物集中域をなし、遺存状況は良い。

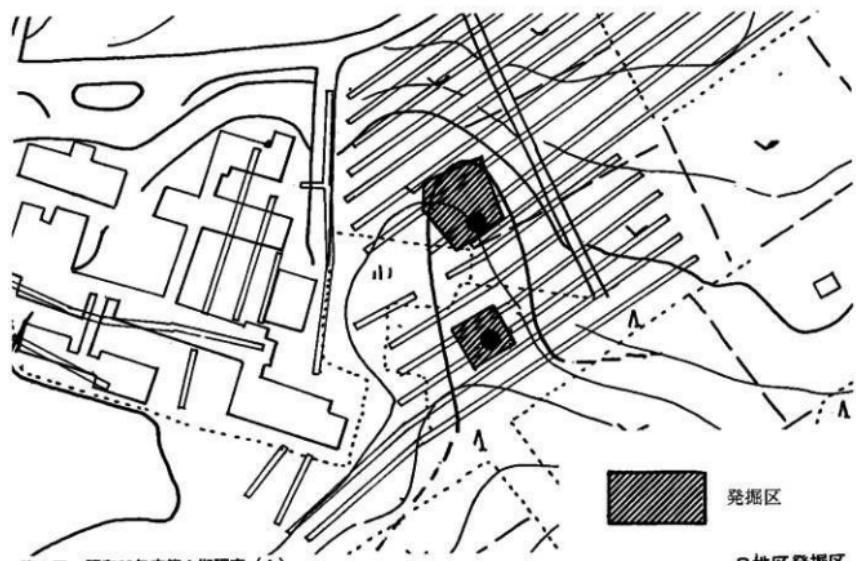
H地区的調査地は雜木林であり、樹木の伐採後、バックホウの機械力により、幅1.2~1.4mのトレンチを、15~20m間隔に長さ15~40mのものを16か所で発掘した。発掘面積は約938m²である。深さは約30~70cmにある黄褐色粘質土上面までである。(写真23の下)

調査の結果、調査区南東隅で、凹石1点が出土した。

調査の結果に基づき、遺跡の保護措置を検討した結果、A地区の2か所の遺物集中区のうち、東側の中頃の地点は平成元年度に本調査を実施することとし、後期の地点はグランド下に盛土で保存することとした。H地区については予定どおり工事を行うこととなった。



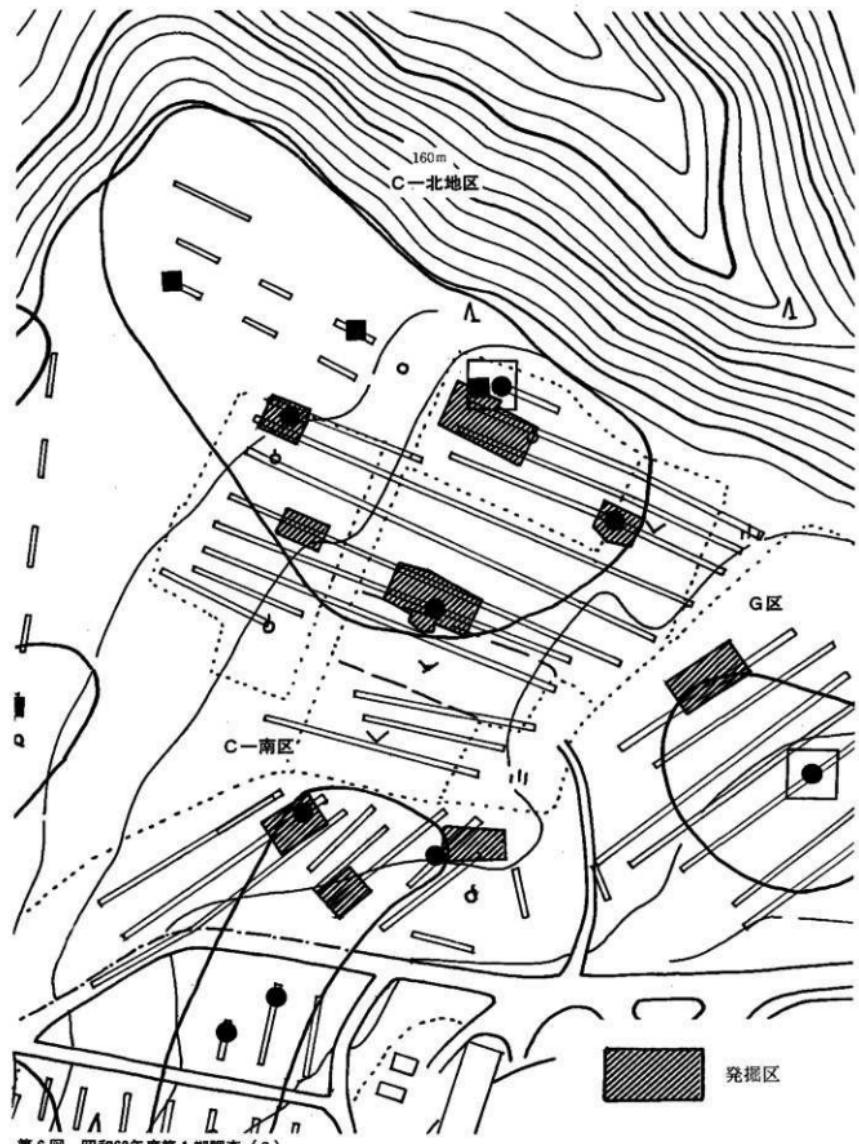
A地区発掘区

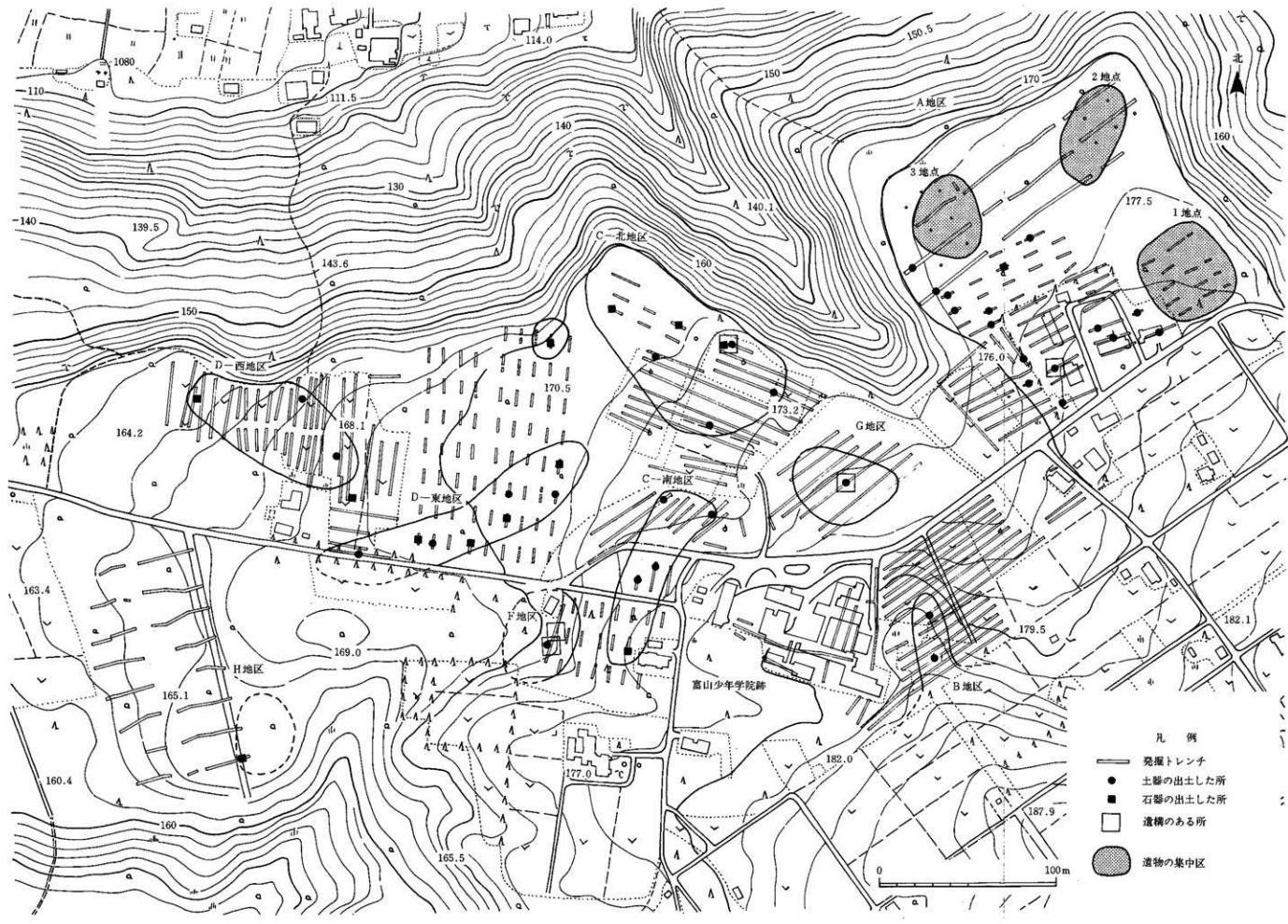


発掘区

第5図 昭和63年度第1期調査（1）

B地区発掘区





第7図 東黒牧上野遺跡試掘調査発掘区(1000分の1)

III. まとめ

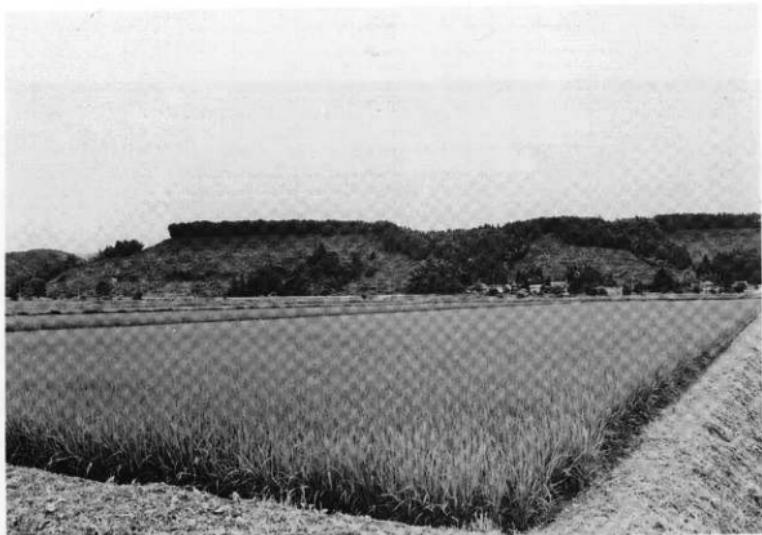
1. 東黒牧上野、東福沢の両遺跡は、「富山県遺跡地図」(富山県教育委員会、昭和47年刊行)に、縄文時代中期の遺跡として登載されていたが、これまで詳しく調査されたことがなかった。
2. 遺跡は、常願寺川の旧扇状地が熊野川によって開析された標高140~200mの台地上に位置し、北側は新扇状地平野を一望し、南側は標高3,000m余の山岳地帯がひかえる。
3. 今回の調査は、この台地上に大山学園都市を建設する計画がおこったため、両遺跡の保護措置を講ずるため、その範囲と遺存状況を確認する試掘調査である。
4. 調査は、昭和62年・昭和63年の2か年にわたり、東黒牧上野遺跡では7地区8,568m²を発掘し、東福沢遺跡では2,565m²を発掘した。
5. 東黒牧上野遺跡は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期・晚期、古墳時代初期、平安時代の複合遺跡であることが明らかとなった。およそ2万年前から1000年前までの人々の生活の跡がここに残されている。出土遺物は、早期・中期・後期・晚期の縄文土器、磨製石斧、打製石斧、石錐、石皿、すり石がある。縄文時代中期中葉・後葉の遺物が量的に最も多い。
遺構は、縄文時代晩期と古墳時代の竪穴住居跡、縄文時代の穴、時期不詳の炭焼窯が発見された。
遺物は、台地の東側約40万m²の広大な面積に散布するが、時代・時期によりその中心地点が異なる。
縄文時代中期と後期は、約2,000m²の遺物集中区をなす。
6. 東福沢遺跡は、縄文時代中期前葉の單一期の遺跡である。竪穴住居跡が確認され、集落跡である。出土遺物は、縄文土器、石錐、石匙、磨製石斧、すり石がある。
遺物の散布は約5万m²にわたり、西側に約1万m²の集中区があり、その中に住居跡がある。



東福沢遺跡の位置



東黒牧上野遺跡と調査対象区



東黒牧上野台地（北より）



A地区 試掘トレンチ（東より）



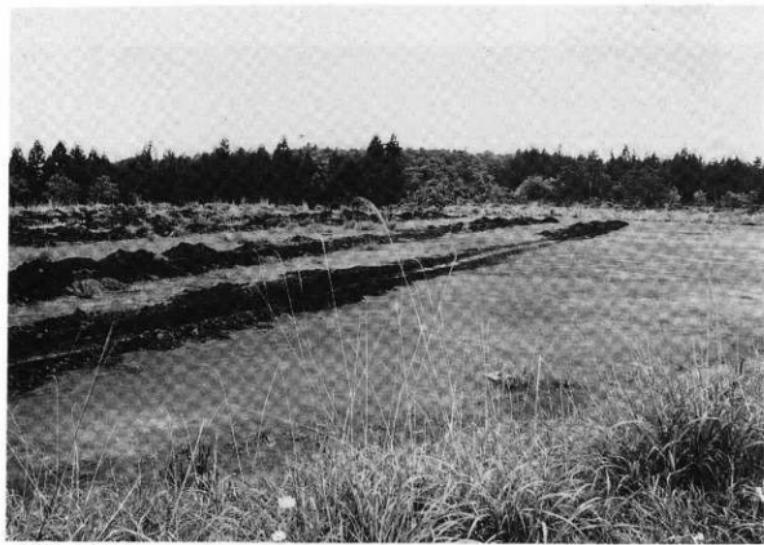
A地区 発掘風景（東より）



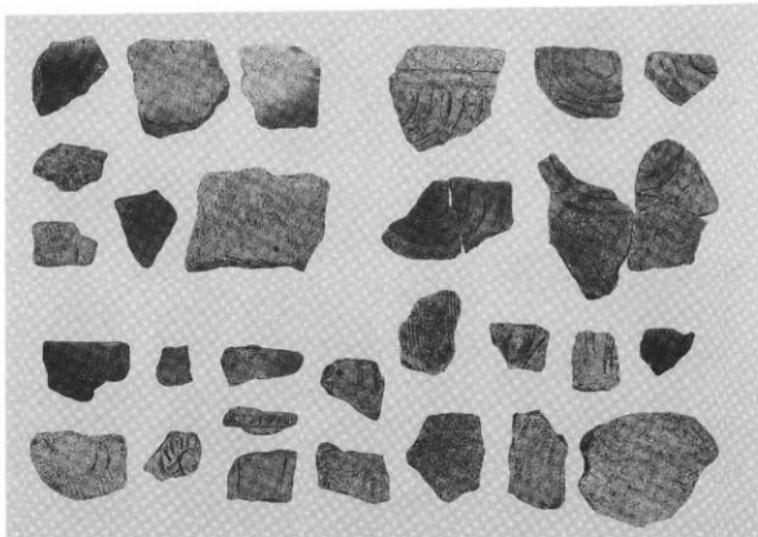
A地区 繩文土器出土状況



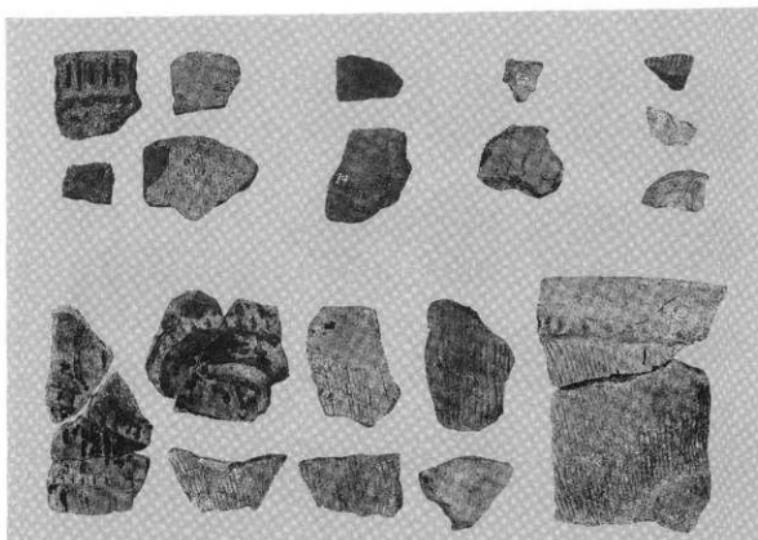
上の林が A 地区（西より）



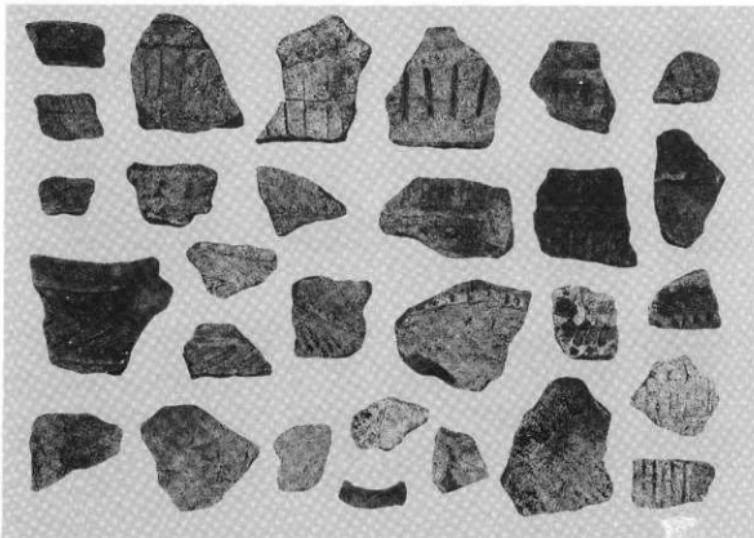
G 地区（南より）



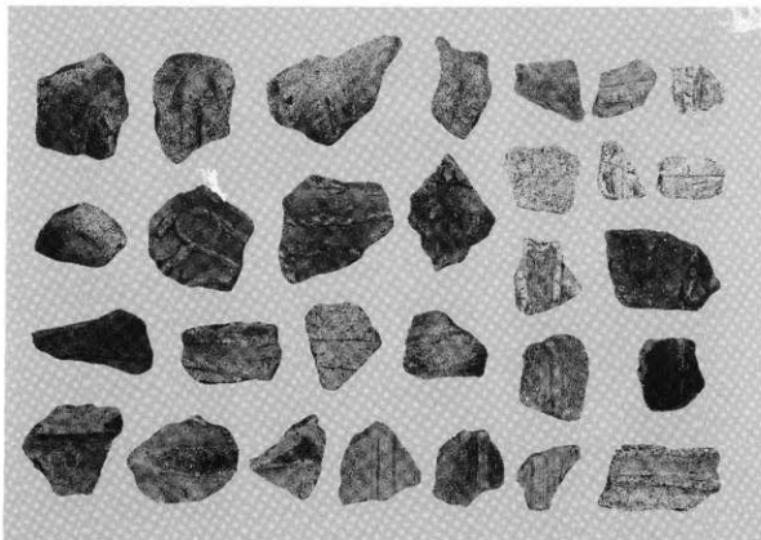
A 地区出土の縄文土器（1）中期 1/2



A 地区出土の縄文土器（2）中期 1/2



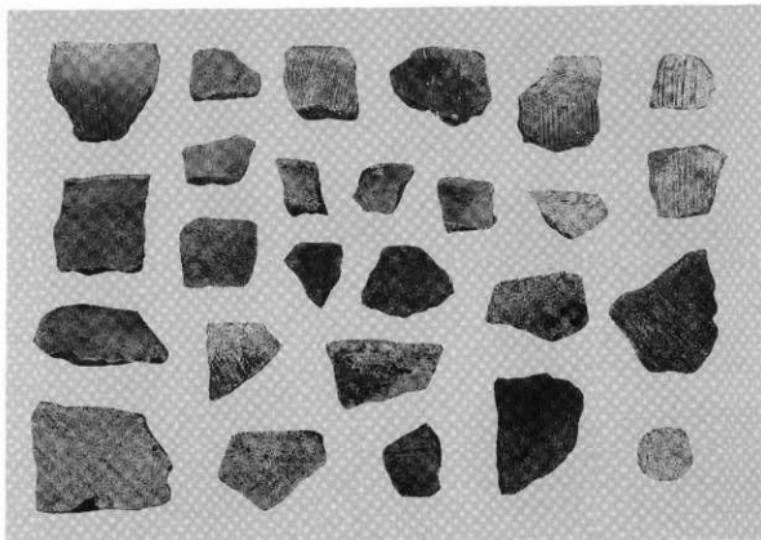
A地区出土の縄文土器（3）中期 1/6



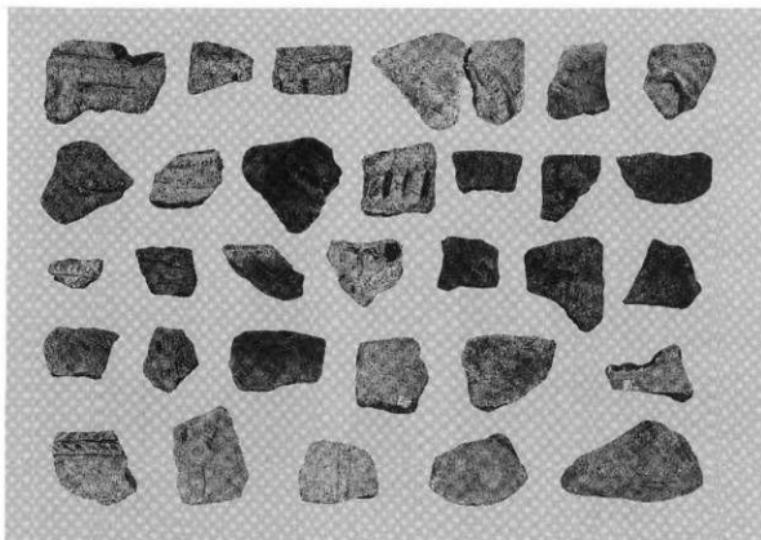
A地区出土の縄文土器（4）中期 1/6



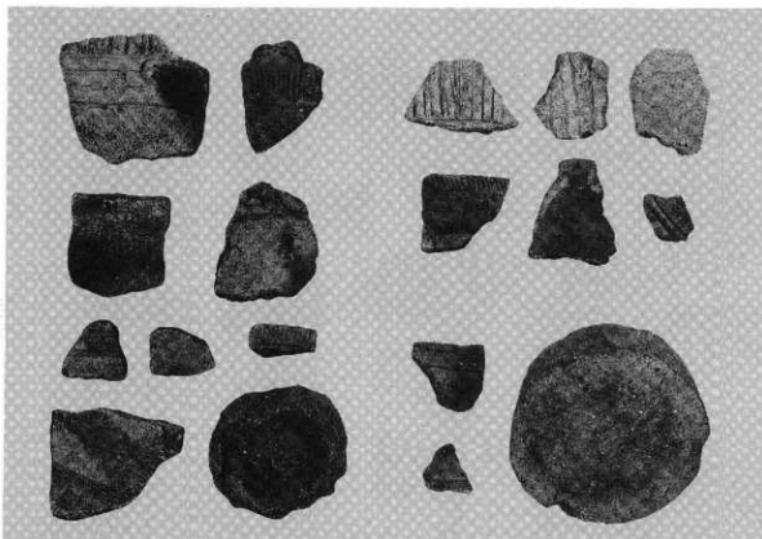
A地区出土の縄文土器（5）中期 $\frac{1}{3}$



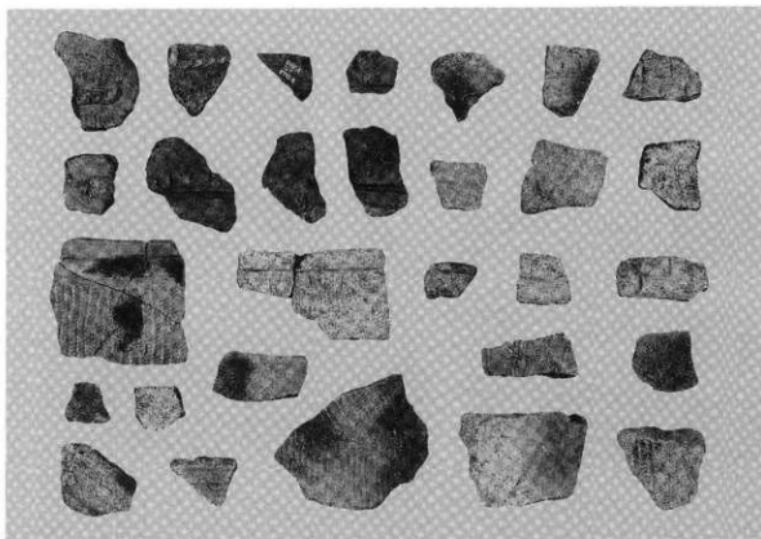
A地区出土の縄文土器（6）中期 右下は土製円板 $\frac{1}{3}$



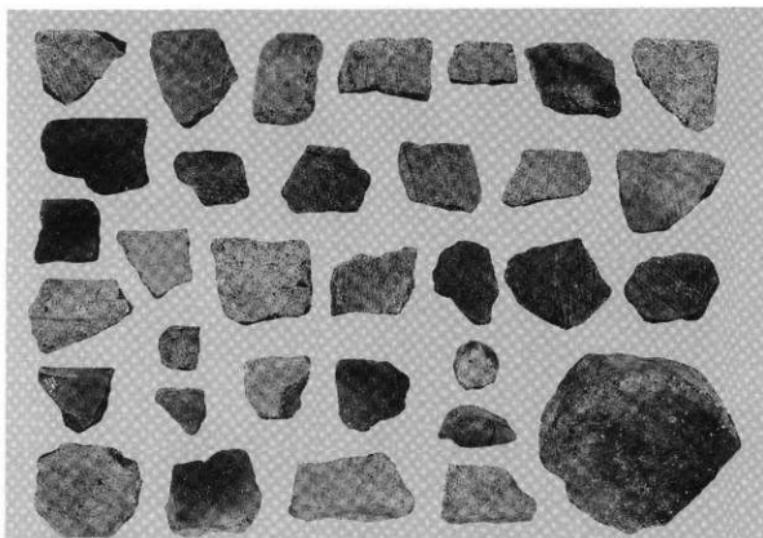
A 地区出土の縄文土器（7）中期 1/3



A 地区出土の縄文土器（8）中期 1/3



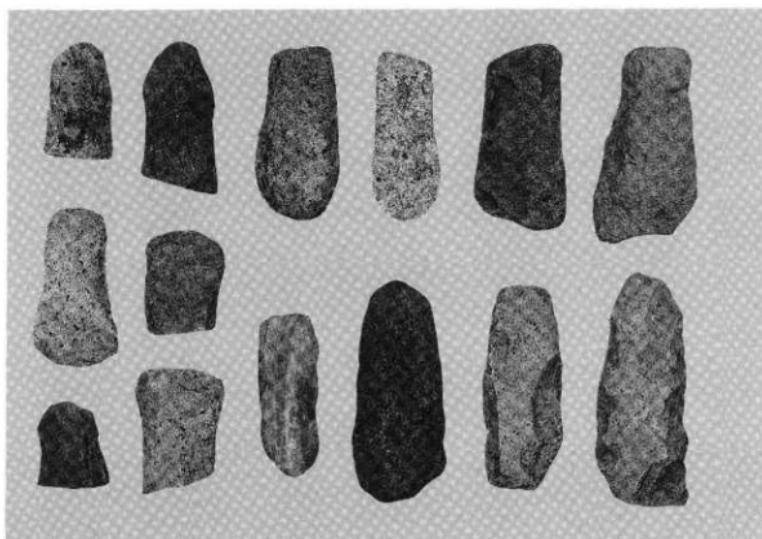
A地区出土の縄文土器（9）中期 1/3



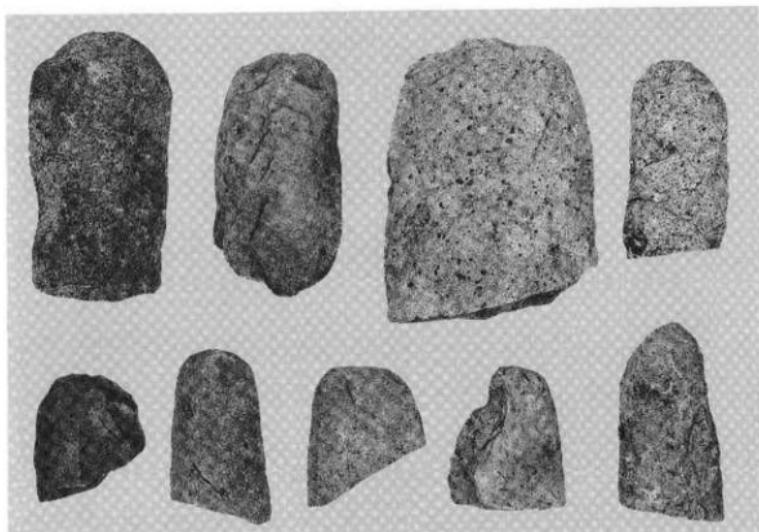
A地区出土の縄文土器（10）中期 1/3



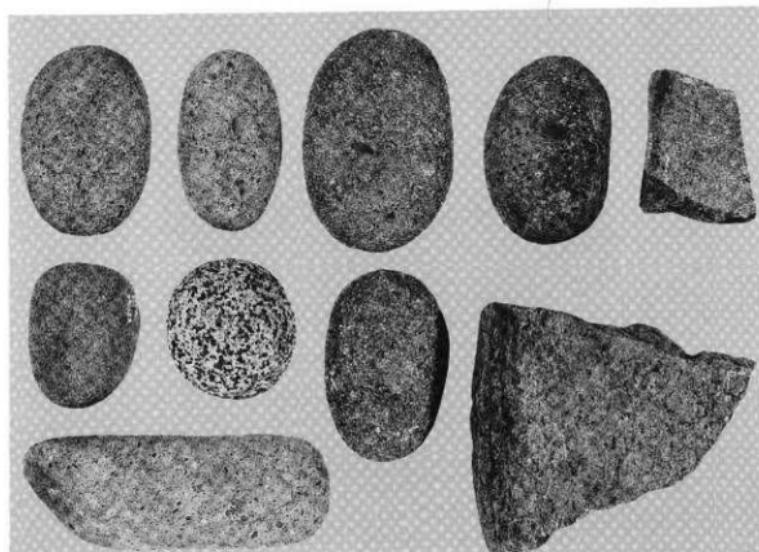
A地区出土の石器（1）磨製石斧、石錘ほか 16



A地区出土の石器（2）打製石斧 16



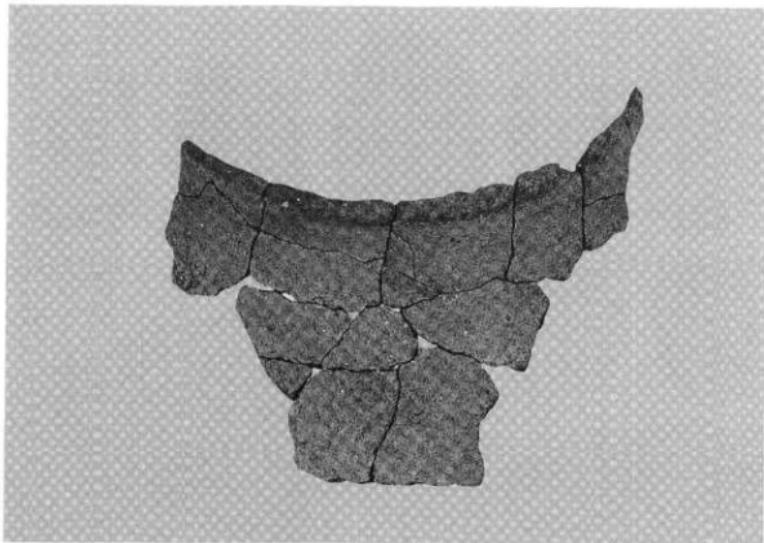
A地区出土の石器（3）磨製石斧未成品 1/2



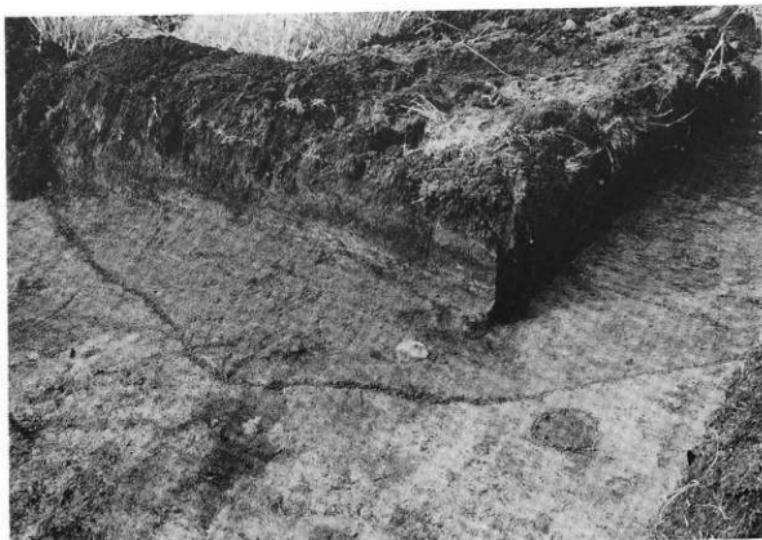
A地区出土の石器（4）くはみ石、すり石、石皿 1/2



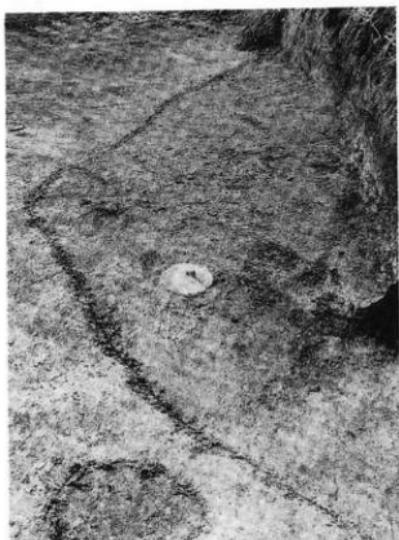
A地区縄文時代晚期の穴（竪穴住居跡か）



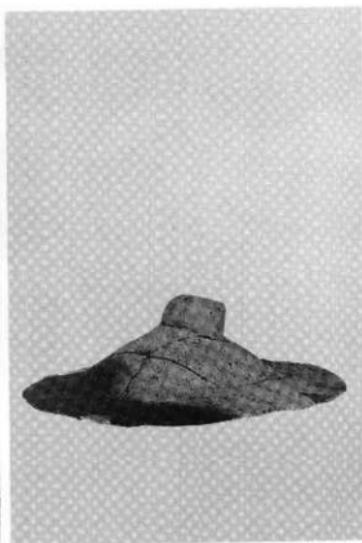
同上穴出土の縄文土器（深鉢） $\frac{1}{4}$



G地区 穹穴住居跡（西より）



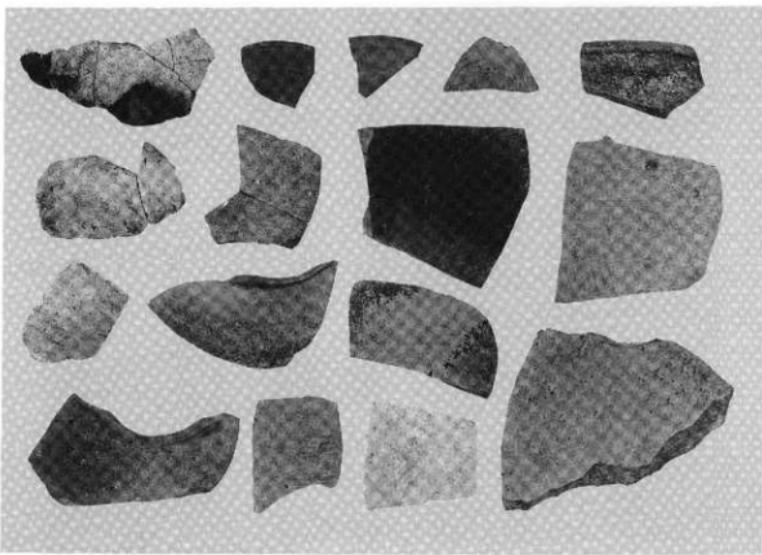
同上（南より）



穹穴住居跡出土の土師器（蓋）1/2



F地区（北より）



F地区出土の須恵器（左上1点はG地区出土の土師器）1/3



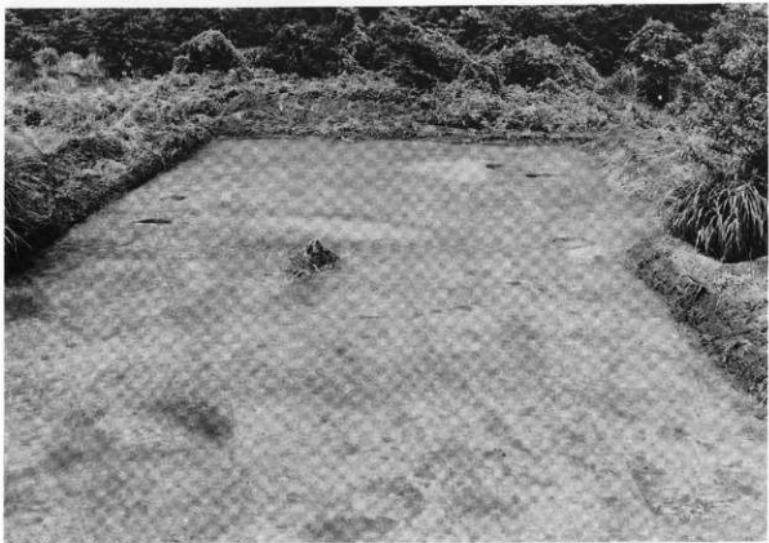
B地区（東より）



D一西区（北より）



C一北地区の縄文時代の穴



C一北地区 本調査区（東より）